

4. 新聞等に掲載された研究

神経感覚器病態解析学領域 (Division of Neurosensory Mechanisms) [生理学第二教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
吉田繁・助教授	Na _x チャンネルの生理的機能	読売新聞	平成14年 6月1日	Na _x チャンネルは中枢における塩分濃度のセンサーであることを明らかにした。このことは、高血圧の治療等への応用に期待できる。
吉田繁・助教授	Na _x チャンネルの生理的機能	日本経済新聞	平成14年 6月3日	Na _x チャンネルは中枢における塩分濃度のセンサーであることを明らかにした。このことは、高血圧の治療等への応用に期待できる。

精神病態制御学領域 (Division of Psychopathology Control) [精神神経学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中根允文・教授	原爆被爆でこころの傷、「被爆地拡大」に関わる報告書	長崎新聞 西日本新聞 読売新聞 毎日新聞	平成13年 8月2日	長崎原爆の被爆未指定地域における被爆体験者がこころの傷を長年にわたって負っていると訴えてきたが厚生労働省の新たな地域研究で実証されたとの報告
中根允文・教授	30,000 Japanese a year have been killing themselves	NEWSWEEK	平成13年 8月20日	日本企業の不況を背景にリストラが進み、年間の自殺者が3万人を超える。社会精神医学的に何が問題か、何がなされるべきかを解説。

皮膚病態制御学領域 (Division of Environmental Neurodermatology) (皮膚科学教室)

免疫機能制御学領域 (Division of Immunology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山一朗・教授	第99回日本皮膚科学会総会シンポジウム「20世紀皮膚科学の総括」抗リン脂質抗体症候群	ケアネットTV メディカルチャンネル	2001/ 1 / 5	血栓症の病態形成における抗リン脂質抗体の役割を概説した
片山一朗・教授	第13回日本アレルギー学会春季臨床大会特集 シンポジウム「アトピー性皮膚炎：難治化の背景とその治療法」～ダニ抗原などの環境因子～	Medical Tribune	2001/ 6 / 7	アトピー性皮膚炎の難治化における環境因子の意義とその対策を概説した
片山一朗・教授	虫さされとアレルギー	KBC ラジオ 「アレルギー談話室」	2001/ 7 / 15	ハチ、ムカデ、蚊による重篤なアレルギーについて解説した
廣瀬寮二・助教授	皮膚腫瘍	NCC 「テレビ健康塾」	2001/	皮膚癌の症状と治療について解説した
清水和宏・講師	光老化	NCC 「テレビ健康塾」	2001/ 6 / 9	太陽紫外線とその防御について解説した
清水和宏・講師	光老化	NCC 「どっきんセニョーラ」	2001	太陽紫外線とその防御について解説した
清水和宏・講師	光老化	NIB 「昼じげドン」	2001	太陽紫外線とその防御について解説した
濱崎洋一郎・講師	内臓悪性腫瘍に伴う皮膚の病変	NCC 「テレビ健康塾」	2001/ 6 / 16	胃癌や肺癌など、種々の内臓悪性腫瘍に伴って生じる皮膚病変の臨床症状について説明。内臓癌の早期発見を啓蒙した。
竹中 基・助手	乾燥肌について	NIB 「NIB プラス1」	2002/ 1 / 7	乾燥肌の病態、対処法について解説した
竹中 基・助手	アトピー性皮膚炎	KTN 「TV みゅーで」	2001/ 1 / 18 2001/ 1 / 25	アトピー性皮膚炎の治療や検査、病態について解説した
竹中 基・助手	アトピーとプールの水について：水が危ない・肌の弱い人はトラブルを起こす？プールの水を追跡	NIB 「NIB プラス1」	2001/ 8 / 29	アトピー性皮膚炎患者のプールの使用について解説した
竹中 基・助手	蕁麻疹	KTN 「TV みゅーで」	2001/12/26	蕁麻疹の種類、治療、アスピリン不耐症、ラテックスアレルギーについて解説した

神経病態制御学領域 (Division of Neurological Disorder Control) [脳神経外科学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田尚武・教授	脳ドックの話	NCC テレビ テレビ健康塾	2001. 4. 21 放送	脳疾患に対する高度先進医療の普及ならびに県民の健康の保持増進
松尾孝之・助手	これからの脳手術 一定 位放射線手術—	NCC テレビ テレビ健康塾	2001. 4. 28 放送	脳疾患に対する高度先進医療の普及ならびに県民の健康の保持増進

循環病態制御学領域 (Division of Cardiovascular Medicine and Surgery) [内科学第三教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
芦澤直人・講師	心不全	NCC テレビ テレビ健康塾	2001. 5. 19 放送	まず、急性心不全と慢性心不全の違いについて説明し、ついで慢性心不全患者がしばしば入・退院を繰り返すことになる急性増悪因子とその予防・対策法について解説した。
矢野捷介・教授	加齢と心臓病	NCC テレビ テレビ健康塾	2001. 5. 26 放送	加齢とともに心臓血管系は老化現象が生じてくる。そのうち動脈硬化は代表的な変化で動脈が硬くなり石灰化を生じると同時に粥腫を生じて狭心症、心筋梗塞、動脈瘤などが発症しやすくなる。その他、心臓弁膜症や心機能低下を生じる。これらについて概略を説明した。
矢野捷介・教授	心臓病の治療はいま	西日本新聞	2001. 8. 18	人口の高齢化、生活様式の欧米化、社会生活におけるストレスによって心臓病による死亡が増加している。心臓病のなかでも死亡がとくに増加している虚血性心疾患について解説した。多くの狭心症および心筋梗塞が動脈硬化を基盤として発症してくること、これらの病態は心筋の酸素不足が主因となって生じてくること、実際の発症機序などについて解説した。さらに虚血性心疾患の予防における危険因子とその除去、改善の方法を解説し、最後に実際の治療法と最新の治療を解説した。
矢野捷介・教授	心筋梗塞から身を守る	朝日新聞	2001. 10. 31	我が国では人口の高齢化、生活様式および食生活が欧米化して虚血性心疾患による死亡が増加している。虚血性心疾患のうち心筋梗塞について、その臨床的特徴、成因、治療、予防法などについて概略を解説した。

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
矢野捷介・教授	心筋梗塞から身を守る	朝日新聞	2001.11.2	人口の高齢化、生活様式および食生活の欧米化によって、我が国では虚血性心疾患による死亡が増加している。虚血性心疾患のうち心筋梗塞について、その臨床的特徴、成因、治療、予防法などについて概略を解説した。
矢野捷介・教授	「不整脈」のメカニズムと最前線治療	朝日新聞	2001.11.29	心臓のリズム異常による不整脈の種類、特徴、最新の治療について解説した。不整脈には期外収縮、頻脈、徐脈などがあり、このうち期外収縮についてはストレスとの関係を解説した。治療はそれを必要としない不整脈もあるが、治療が必要な不整脈には薬物治療および非薬物治療が行われる。非薬物療法は、ペースメーカー治療、カテーテルアブレーション治療、植え込み型除細動器治療などについて解説した。

内臓機能病態制御学領域 (Division of Surgery in Oncology and Transplantation) [外科学第一教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中越 享・助教授	大腸癌の治療はいま.....	西日本新聞	2001年 3月31日	QOL を重視した大腸癌治療の進歩を述べた。

呼吸器病態制御学領域 (Division of Respiratory Diseases) [内科学第二教室]

消化器病態制御学領域 (Division of Gastroenterology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	生物兵器ってなあーに	NCC 「テレビ健康塾」	01.12.22	米国において引き起こされた炭疽菌によるバイオテロについて、その特徴や治療法、米国の対応などについて解説した。またその他のバイオテロに悪用される可能性のある病原体についても、概要と対策法について述べた。
河野 茂・教授	肺炎について	KTN 「テレビみゅーで」	01.5.10	肺炎はいまだ死因の上位を占める重要な疾患であり、高齢者だけでなく若年者でも罹患することが多い。各年齢層での肺炎の特徴、肺炎を疑い病院を受診すべき症状のポイント、および日常生活での予防策などについて解説した。
河野 茂・教授	結核院内感染 注意を	読売新聞	01.4.21	近年、老人保健施設、病院での結核集団発生、医師看護婦など医療従事者の結核感染が問題となっており、結核に対する認識不足が発見の遅延、集団感染の原因の一つに考えられている。その現状と対策法について解説した。
河野 茂・教授	肺炎の治療はいま...	西日本新聞	01.6.16	これまでの肺炎は、原因菌及び治療者が多彩で、使用可能抗菌薬も膨大であったため治療方針が多様であった。今回治療効果の向上を期待し、市中肺炎診療ガイドラインが作成された。このガイドラインについて解説した。
河野 茂・教授	「市中肺炎ガイドライン」に沿った「肺炎」の適性治療を	宮崎日々新聞	01.6.21	市中肺炎とは一般社会生活を送っている人に見られる肺炎で、今回診療ガイドラインが作成された。これに基づいて、診断基準や重症度分類、原因微生物の検査法を示し、適切な抗菌薬の使用法について解説した。
岡 三喜男・助教授	息切れと肺の病気	NCC 「テレビ健康塾」	01.12.29	一般向けに「息切れ」とは何か、どのような時に気付くのかを図・表を用いて解説した。さらに、その発症のメカニズムを分かり易く解説し、タバコの健康害(とくに肺気腫)についてもふれた。

放射線診断治療学領域 (Division of Radiology) [放射線医学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東昌子・講師	シンクロトロンCTを用いた骨質評価	メディカルトリビューン	2001. 9. 1	骨強度に関与している骨質を評価する方法を紹介

生体分子解析学領域 (Division of Biomolecular Analysis) [法医学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
池松和哉・助手	法医剖検脳におけるストレス蛋白ORP-150の発現様態	Medical Tribune	2001. 5. 10	第85次日本法医学総会において、ストレス蛋白ORP-150の発現は年齢依存性があり、また死因によって著しい差異があることを報告した。

免疫内分泌代謝病態制御学領域

(Division of Rheumatology , Endocrinology and Metabology) [内科学第一教室]

神経病態制御学領域 (Division of Neurological Disorder Control)

消化器病態制御学領域 (Division of Gastroenterology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
江口勝美・教授	慢性関節リウマチの治療はいま...	西日本新聞	2001. 7. 7	慢性関節リウマチに対する新しい薬が多数開発され保険で使用できるようになるうとしており、薬物療法において大きな返還の時期を迎えていることから、主に薬物療法について記載。
芦澤潔人・助手	チェルノブイリ事故による健康影響調査	長崎新聞	2001. 4. 28	チェルノブイリ原発事故から15年目での健康影響を紹介し問題点を検討した。
芦澤潔人・助手	遠隔医療診断支援システム	長崎新聞	2001. 2. 21	2年間で約1000件を画像診断した。

形態制御動態解析学領域 (Division of Cellular & Structural Biology) [解剖学第二教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
分部哲秋・講師	NHK スペシャル「日本人はるかな旅」第4集	NHK総合テレビ	2001. 11. 11	対馬から出土した縄文時代人骨の特殊な骨形態から当時の人々の生業について考察し、現在の対馬における生活・風習との関連を推察した。

構造病態再生学領域 (Division of Structural Regenerative Pathogeny) [整形外科学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
進藤裕幸・教授	老化と膝痛	朝日新聞	H 13. 11. 17	変形性膝関節症について解説
進藤裕幸・教授	骨粗鬆症の治療	西日本新聞	H 13. 11. 24	骨粗鬆症の治療法について解説
衛藤正雄・講師	関節の痛み	長崎新聞	H 13. 9. 16	関節痛の原因について解説

構造病態再生学領域 (Division of Structural Regenerative Pathogeny) [形成外科学教室]

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山野辺裕二・講師	電子カルテと医療情報システムの今後	ジャミックジャーナル. 21(5): 44-45 (2001)	2001年5月	病院情報のシステムチックな管理方法につき提唱した

環境医学領域 (Division of Environmental Health) [衛生学教室]

医哲学・医史学領域 (Division of Medical History)

疫学領域 (Division of Epidemiology)

予防医学領域 (Division of Preventive Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
有澤孝吉・助教授	第21回イタイタイ病セミナーにおいて講演	北日本新聞	2001.11.5	第21回イタイタイ病セミナーにおいて、対馬地域の調査結果より、カドミウムの摂取量が減少しても、腎機能障害は改善されず進行していたことを報告。神通川流域でのカドミウム摂取量の測定及び病気の予防策の必要性を説明した。

国際医療学領域 (Division of International Medicine) [公衆衛生学教室]

予防医学領域 (Division of Preventive Medicine)

産業医学領域 (Division of Industrial Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
草野洋介・助手	クラミジア感染症	KTN テレビ長崎みゅーで	2001.7.19	近年若者の性行動の活発化が顕著で、性感染症としてのクラミジア感染症の感染率が上昇している。クラミジア感染症の解説および予防法、治療法について解説した。
草野洋介・助手	VDT 障害とその予防	KTN テレビ長崎みゅーで	2001.12.20	コンピュータの普及に伴い産業保健現場ではVDT 障害が問題となっている。家庭においても長時間のパソコンの使用は障害が発生すること、そしてその予防法について解説した。

原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門 放射線応答解析研究分野

(Department of Radiation Biophysics, Radiation Effect Research Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛・教授	被爆地域拡大是正で専門 家会議	長崎新聞	2001.2.23	被爆地域の科学的根拠を討議した。
奥村 寛・教授	「DS 86」問題討議スタート	中国新聞	2001.3.22	広島、長崎原爆の放射線量計算システム「DS 86」の問題点を討議した。
奥村 寛・教授	被爆地域拡大の行方 研 究班最終報告(上)	長崎新聞	2001.7.17	被爆地域拡大の根拠として科学的調査の結果を示した。
奥村 寛・教授	被爆地域拡大の行方 研 究班最終報告(中)	長崎新聞	2001.7.18	被爆による精神医学的影響の調査結果を示した。
奥村 寛・教授	被爆地域拡大の行方 研 究班最終報告(下)	長崎新聞	2001.7.19	被爆体験の影響と被ばく線量との関係を討議した。
芦澤潔人・助手	遠隔医療診断支援システム	長崎新聞	2001.2.21	2年間で約1,000件を画像診断した。
芦澤潔人・助手	チェルノブイリ事故による健康影響調査	長崎新聞	2001.4.28	チェルノブイリ原発事故から15年目での健康影響を紹介し問題点を検討した。

原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門 放射線疫学研究分野

(Department of Radiation Epidemiology, Radiation Effect Research Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田義貞・教授	チェルノブイリ原発事故 周辺地域での小児甲状腺 がんに関する疫学調査	毎日新聞 教育医事新聞 長崎新聞	2001.6.1 2001.7.25 2001.12.14	チェルノブイリ原発周辺地域在住の事故前後に生まれた子供を対象に甲状腺検診を行い、事故後チェルノブイリ周辺で激増した小児甲状腺がんは、検診効果などではなく、事故によって放出されたヨウ素131などの短寿命放射性降下物によるものであることを示した。
柴田義貞・教授	チェルノブイリ原発事故 周辺地域での小児甲状腺 がん調査	読売新聞 西日本新聞 長崎新聞	2001.12.6 2001.12.6 2001.12.6	チェルノブイリ原発事故周辺地域において行なってきた医療支援に対し、ロシア連邦からロシア友好勲章を授与された。
本田純久・助手	原爆被爆者の急性症状の 記憶に関する思い出し調 査	中国新聞	2001.6.12	原爆被爆者を対象に急性症状の記憶の正確さに関する思い出し調査を実施した。その結果、最近の調査での記憶と過去の記録との間に高い一致がみられ、被爆者は被爆体験をかなり鮮明に記憶していることが示唆された。

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 変異遺伝子解析研究分野

(Department of Human Genetics, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
新川詔夫・教授	耳垢遺伝子の局在	ネイチャー	6月7日	遺伝学：乳がんの危険性が耳あかで分かる-あなたのは乾いている？湿っている？
新川詔夫・教授	耳垢遺伝子の局在	河北新聞	8月27日	耳あか遺伝子を突き止める
新川詔夫・教授	耳垢遺伝子の局在	長崎新聞	9月6日	耳あかタイプを決める遺伝子を発見
新川詔夫・教授	耳垢遺伝子の局在	週間新潮	9月13日	これぞ朗報という「耳垢」遺伝子発見とは

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 分子診断研究分野

(Department of Nature Medicine , Molecular Medicine Unit , Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	カザフスタン共和国セミ パラチンスク市の保健局 長らが被爆者援護システ ムの視察に来訪	長崎新聞	2001年1月 25日	国際ヒバクシャ医療
	長崎大医学部の被ばく者 遠隔医療支援、2年で診断 1000件に	長崎新聞	2001年2月 21日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	NEWS FOCUS Living in the Shadow Of Chernobyl	SCIENCE	2001年4月	国際ヒバクシャ医療
	チェルノブイリ事故から 15年、「笹川医療協力支援 事業」が3月末で現地支援 を終了。	長崎新聞	2001年4月 26日	国際ヒバクシャ医療
	カザフスタン国土の大部 分核汚染？ 旧ソ連の核爆発で放射線 量2～3倍	朝日新聞	2001年5月 1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	小児がん診断などで貢献 した山下教授にベラルー シ共和国よりスコリナ勳 章が贈られた。	長崎新聞	2001年5月 1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	「インタビュー」被爆体 験の活用が責務	長崎新聞	2001年5月 8日	国際ヒバクシャ医療
	がん検診技術改善へ、カ ザフスタン共和国の現地 専門家に長崎大学医学部 より病理学指導	長崎新聞	2001年6月 27日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大医学部の山下、柴 田両教授、笹川記念保健 協力財団の楨チェルノブ イリ医療協力室長の三氏 にウクライナ政府より9 日感謝状が贈られた。	産経新聞	2001年7月 10日	国際ヒバクシャ医療
	社団法人シュバイツァー 日本友の会とアルパー ト・シュバイツァー世界 医学アカデミーは、28日 午前9時より長崎大学医 学部ポンペ会館で「生命 と平和のセミナー」を開 く。	長崎新聞	2001年7月 27日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	長崎で生命と平和のセミナーが、28日、社団法人シュバイツァー日本友の会とアルバート・シュバイツァー世界医学アカデミーの共催にて開かれた。	長崎新聞	2001年7月29日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	論点「チェルノブイリ支援」継続を	読売新聞	2001年8月3日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	世界のヒバクシャ・・・ヒバクシャ医療の現場から	アール・コム 長崎県労働金庫会報誌	2001年8月	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	11日、福岡県保険医協会主催の講演会で、長崎大医学部 山下教授がチェルノブイリでの検診についての記念講演を行った。	赤旗	2001年8月14日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	原子力安全委員会被ばく医療分科会の第二回ヨウ素剤検討会が7日開かれ、ヨウ素剤予防投与の必然性について審議を行った。	原子力産業新聞	2001年9月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	大学改革に先んじる原爆研究と放射線生命科学のセンター拠点化構想への夢。	長崎大学アイソトープ総合センターニュース	2001年11月1日	放射線医科学
山下俊一・教授	チェルノブイリ原発事故汚染地域で医療支援により長大山下、柴田教授に「ロシア友好勲章」。	長崎新聞	2001年12月6日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	チェルノブイリ原発事故医療支援に貢献により長崎大の山下、柴田教授、「ロシア友好勲章」受賞	読売新聞	2001年12月6日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大医学部の山下、柴田教授 チェルノブイリでがん治療「ロシア友好勲章」受賞へ。	西日本新聞	2001年12月6日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	ロシア政府よりチェルノブイリ放射線医療の3邦人に勲章。	産経新聞	2001年12月8日	国際ヒバクシャ医療

「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎の被爆医療のノウハウを世界へ発信し、海外からの研修生の受け入れ指導と公開セミナー開催など市民の目の高さでの医学の推進、啓蒙に尽力している。

原爆後障害医療研究施設 資料収集保存部 生体材料保存室

(Tissue and Histopathology Section, Division of Scientific Data Registry, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中島正洋	被爆者遠隔医療支援	長崎新聞	2001.2.21	旧ソ連のチェルノブイリ原発事故やセミパラチンスク核実験場（閉鎖）周辺の被爆者医療を支援する「遠隔医療診断支援システム」の導入で、特に甲状腺癌の発見などに成果を挙げている事を説明した。

腎疾患治療部 (Renal Care Unit)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
原田孝司・助教 授	腎臓病の治療は今	西日本新聞	2001年2月 24日	腎臓病の早期発見と治療についての啓蒙
原田孝司・助教 授	知っておきたい腎臓の病 気 腎不全にならないた めに	長崎新聞	2001年11月 15日	腎臓病の解説と腎不全にならないための管理治療についての啓蒙